

富山市総合計画審議会第6回活力部会 概要

場所：富山市役所議会棟8階 第3委員会室

日時：平成18年11月15日（水）

10：00～11：35

1 開会

2 部会長あいさつ

長尾部会長あいさつ

10月14日に第5回部会で意見をいただいたことに対して、対応が出された。

本日は、それに対する意見と、来る答申に向けて、活発な議論をお願いしたい。

3 議事

- ・総合計画前期基本計画（案）についての意見と対応（案）について
- ・市民に期待する役割について

< 概要 >

（部会長）一括して説明をお願いしたい。

（事務局）資料について説明

（部会長）観光客入込み客数などの統計データの取り方については、改正などを検討しているのか。

（事務局）富山県との協議、整理を含めて今後検討したい。

（委員）入込み客数を正確に得ることは難しい。傾向がわかることが重要と思う。富山へ来る観光客が国際化しているので、把握することが必要と思う。

（事務局）156頁に富山空港国際線の外国人降客数を外国人観光客入込数として指標化している。

（委員）富山空港からどの観光地へ行くのかに視点を置いて考えなくてはならない。

（部会長）外国人観光客をまちなかに誘引する策が必要である。

（委員）滞在型観光には、魅力ある拠点が必要である。

（事務局）韓国の観光客は、ゴルフ、温泉、立山に関心が強い。

(委員) 立山黒部アルペンルートの観光客数は年間およそ１００万人おり、そのうち２０％が富山市で宿泊するようである。

(部会長) 韓国の観光客のニーズを掘り下げることが必要である。
意見と対応(案)の No.17 であるが、製造業の付加価値額をやめて、製造品出荷額に変更するということか。

(事務局) 付加価値額については、企業の努力によるところが大きいので、市が関与できない部分であると考えている。

(部会長) 行政としては、市全体トータルな出荷額として把握するということになる。

(委員) 漁業関係者に聞くと、漁業には担い手が比較的おり、担い手の問題は農林業ほど深刻ではないようである。ただし、地元の漁港で水揚げされた魚類が、ほとんど市内に流通していない。市内への流通状況がわかる指標はないか。
コンパクトなまちづくりを行うことは、個人として賛成であるが、まちなかと農村地域の人口移動の関係をどのように考えるのか。検討の必要はないのか。

(事務局) 公共施設等が郊外に移転したことなどにより、従来まちなかに居住していた方々が郊外に居住するようになった。コンパクトなまちづくりは、その方々をもう一度まちなかへ呼び戻そうというものであり、従来から農村地域に居住し、農業に従事している方々までまちなかで居住させようという考えはない。

(委員) 基本はわかるが、コンパクトなまちづくりは求心力が強いので、農村地域の住民も吸い寄せてしまう可能性がある。まちなかと農村地域の新しい連携の仕方が重要と思う。

(事務局) 基本構想の審議の際にも同様の意見があり、答申に反映した。基本計画の答申に反映することと、コンパクトなまちづくりの施策の中で農村地域との連携にふれることをあわせて検討したい。

(部会長) この総合計画前期基本計画のコンパクトなまちづくりの考え方の中で、農村地域との維持、連携など、コンパクトなまちづくりの基本スタンスについて記載する必要がある。

(委員) 基本的なスタンスを市民に理解してもらう必要がある。

(部会長) コンパクトなまちづくりは、多くの市民が、中心部に人を寄せるまちづくりと考えている。そうではないと釘を刺す必要がある。農村部の人々も中心部に寄せるという発想ではない。このことは、主要課題のところで記載すること

も可能ではないか。

地元の魚類の地域内流通については把握できるのか。

(事務局) 102頁で、中央卸売市場の県内産の取り扱い割合を掲載しているが、増加傾向にある市場外流通までは把握することは難しい。

(委員) 一つの指標で表すことが難しい場合は、複数の指標を組み合わせて見せるしかない。地産地消は、観光面でも重要である。富山市の魅力の一つに魚がある。観光客が富山市に来て、他県産の魚を食べるようでは観光として成り立たない。

(部会長) 魚類の地域内流通の指標としては、難しいということで良いか。木材に関する同様の指標はあるのか。

(事務局) 木材の県内自給率は3%である。

(委員) 木材の県内自給率が3%と低いだけに、それを指標とするのはどうか。また、市民にとって、森林整備面積が指標になっているよりも、海岸に漂着する流木量の増減を指標としたほうが、より生活に近く、わかりやすいのではないか。

(事務局) 大規模な降雨等の災害等がないと流木の発生はないので、数値として正確に捉えられるかを含め、検討したい。

(委員) 大山地域の恐竜化石の保全等については記載があるのか。

(事務局) 52頁の施策4市民の自主的な学習環境の充実のところに記載している。

(部会長) 指標の目標設定の根拠等については、説明欄に記載するのか。

(事務局) 指標の目標設定の考え方と積算の根拠をあわせて記載したい。

(部会長) 指標を選定した根拠の説明についてはどうか。

(事務局) 総合計画の施策の方向性を測るものの一つとして、数値化できかつ代表的なものを選定したものであり、一つひとつ根拠を述べることは難しいと考えている。

(部会長) 目標の置き方は、成果として表す方が良い。

（事務局） 全ての施策について数値として捉えられる成果を記載することは難しい。また、前後の文章との関連が薄い指標もある。成果としての指標をなるべく用いることとあわせて、文章と関連がより強い指標の選定を全体的に検討したい。

（部会長） 意見と対応の No.65 であるが、190 頁に追加する文章はいつの時代の計画でも変わらないものとなっている。事業所数が減少傾向にあることを述べるのであれば、そのことを分析した記載が必要と思う。

（事務局） 検討します。

（委員） 産業構造の変化による部分が大きいが、衰退傾向にある産業を、構造改革特別区域の設定を視野に入れた施策の展開を考えてほしい。

（委員） まちの活力を創造するには、人の魅力が大切である。外国人観光客に対しては、外国語表示の看板が必要である。また、まちなか観光のためにはくすりのミュージアムなど、くすりを中心とした核となる大きな施設が必要と思う。中途半端なものは必要ない。

（事務局） 160 頁施策3 富山ブランドの発掘・発信の中で、くすりに関する情報発信の拠点となる施設などの整備について検討するとしている。

（委員） 県とも協力して核となる施設の整備が必要と思う。

（部会長） くすりに関する情報発信の拠点となる施設などの整備の検討の内容や方向性を現段階で表現できないか。

（事務局） 具体的に決まっていないので、表現しづらい。新幹線の開業までには城址公園の整備もされることから、あわせて検討したい。

（委員） 大和の跡地はどうなっているのか。

（事務局） まだ何も決まっていない。民有地なので、市として直接整備に関わることは難しいと考えている。

（部会長） これらのものは個別、具体の施策の中で今後意見を出してほしい。

（委員） くすりに関連する施設が分散しているので、まとめることは必要と思う。国際会議場や市民プラザの1階は、市民に貸し出しがされず、イベント等が行えない。1階でイベント等が行えれば、賑わいの創出にもつながると思う。

- (部会長) 既存の施設の活用の仕方が重要である。
市民に期待する役割のところではどうか。市民に期待する役割についてはどのように啓蒙していくのが重要であり、そのための施策が必要である。
- (委員) 市民説明会で、横文字が多くてわかりにくいとの意見があったが、市民との協働社会を確立するためには、まずはわかりやすいことが重要と思う。
- (部会長) 市民に期待する役割を実際に引き出すには、仕掛けと場づくりが重要である。ボランティア活動も参加率が年々減少傾向にあり、無償の限界を感じている。中心市街地のアーバンアテンダント事業も、なかなか参加者が集まらない状況にある。
答申に向けて、全体を通じて意見はないか。
- (委員) 対外的に富山ブランドはインパクトが弱い。立山を観て癒され、くすりで健康になるなど立山とくすりをつなげるイメージ戦略、イメージ付けが必要と思う。
- (部会長) 富山から連想できるイメージの確立が必要と思う。
- (委員) 富山は立山のベースキャンプ地でもなく、くすりもあいまい。イメージがはっきり定着していないと、観光客を呼び込むには難しい。
- (部会長) インターネットで検索する際に、地名で検索する人は少ない。何らかのキーワードで検索する。そのキーワードがその地のイメージとなる。探し方の視点で観光を PR することも必要。富山のイメージについては、そろそろ市民を含めて、みんなで議論する時期に来ている。
- (委員) 富山商工会議所は水の都とやまとして PR を行っている。富山のイメージを考えることは、若い人の方が考えも柔軟で得意と思う。若い世代に任せるのも方法の一つではないか。
- (委員) 癒し、健康、水は全てにおいて農林水産業に関わる。高齢者が農業に携わることで、癒され、健康になり、病院に行く人が減る例もある。また水がおいしいと農産物もおいしい。
全体的な部分では、協働部会で議論できると思うが、市民に期待する役割で、市政への参画も重要であるが、住民自らが考えて行動し、地域づくりをすることを基本的なスタンスとすることをどこかで述べる必要があると思う。今後は、行政任せの時代ではない。また、これにより、面白い地域が増えると思う。
- (委員) 地域の防犯組織や、地域除排雪がその例である。

(部会長) 行政として、市民が自発的に行動できる仕組みを作ること表現すべきである。この考えを盛り込むことを検討されたい。これで本日の部会を終了する。本日はありがとうございました。

4 閉会

(以上)